

こんにちは！！

岩手県社会福祉事業団支援検討会です。

すっかりご無沙汰しておりました「支援検討会」の報告です。
実は・・・平成29年度も取組みを継続しておりましたので、ここにご紹介いたします！

支援検討発表会！

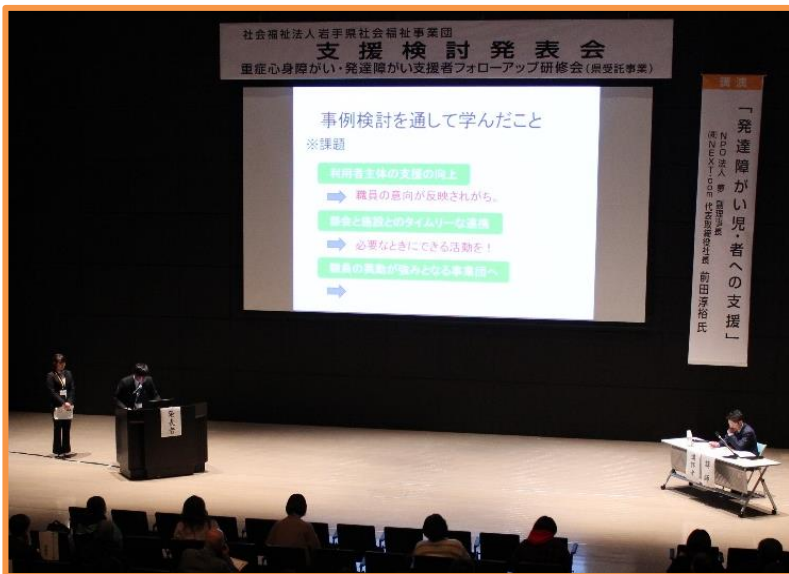
支援検討発表会9:45～14:00 フォローアップ研修会 14:00～16:30

H30 1 / 26 金

アイーナ 小田島組☆ほ～る

「岩手県社会福祉事業団支援検討会」の検討結果について発表会を開催！職員の行動力や調整力、プレゼンテーション能力等を高めるとともに、その取組みの内容を共有することで、実践における支援スキルの向上を目指すことを目的に、H27年度から実施しています。H29年度は、当事業団職員による県外の先進地視察報告、3つの検討部会での検討結果を発表いただきました♡

また、重症心身障がい・発達障がい児者を支援する人材の育成並びに地域支援体制の構築が喫緊の課題となっている中、当事業団が岩手県から委託を受けて実施した「重症心身障がい・発達障がい支援者育成業務」の研修事業のフォローアップ研修として、受講者等を対象に重症心身障がい・発達障がい支援者フォローアップ研修会を同時開催しました。



各検討部会から、若手職員が検討結果を発表しました。
それぞれが感じたこと、学んだことを共有する機会となりました。



フォローアップ研修会では、NPO法人夢の前田副理事長から、実際の支援の映像を交えながら、熱いご講義をいただきました。



県内の社会福祉施設・団体の関係者等
およそ140人の方に参加いただきました。



高齢障がい者支援検討部会

高齢障がい者が終末期に向かうに連れ、急激な機能低下への対応、看取りに近い困難な支援、身元引受人がいない方への煩雑な事務処理等、より高度で複雑な支援スキルが求められ、これらの支援方法の確立が喫緊の課題となっています。これらの課題に対応するため、終末期ガイドラインを作成し、事業団内各施設で一定の共通した対応が図られるよう取組みました。



前年度作成した終末期支援ガイドライン（案）をより実用的なものになるよう見直し、終末期に関する支援及び対応方法について、具体的な事例をもとに紹介する内容にしました。適切な手順に基づいた丁寧な対応と専門的スキルを身につけ、支援を盤石とすることの大切さを共有しました。また、事故防止、リスク予防のため、「健康活動チャレンジ」にも取組みました。



「健康活動チャレンジ」の様子

* 検討部会開催回数：7回

行動・発達障がい支援検討部会



ピカジップ法を用いた会議の様子



経験年数の浅い職員が増える中、行動障がい・発達障がいのある方への適切な支援技術、環境調整、支援方法の共有が望まれる状況であり、検討部会での活動が実際の現場に活かされるよう、現場と一体となる取組みを目指して検討を進めました。

他利用者への過干渉等がある行動障がいの方への対応に苦慮している事例に焦点を当て、施設の業務改善活動とリンクさせ、検討と実践を繰り返す形で事例検討を行いました。多角的な意見交換や情報収集ができ、職員の力量の向上や柔軟な発想へと繋がりました。

* 検討部会開催回数：7回

障がい者の地域生活支援検討部会

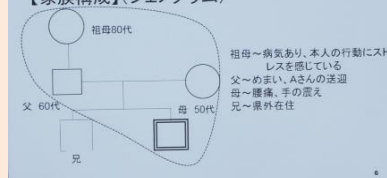
地域で暮らすものの、障がい特性からの他害、コミュニケーションが不得手によるひきこもり、地域との繋がりが希薄であるための家族ごとの孤立化等、地域で生活していくうえで、さまざまな「生きにくさ」を抱えているケースがあります。当事者が希望する地域での生活を送るために必要となるサービス確保や自身が気づかない課題を捉え、閉塞感から1歩でも抜け出す方法を考えることを目的に昨年度、新たに部会を立ち上げました。

「地域での生きにくさ」を持つ事例について検討し、法人として、早期介入・早期療育を行うためのネットワークを構築し、地域の実情及びニーズの把握を行うこと、短期入所事業等によるセーフティネット機能の発揮、行動障がいに配慮した環境（グループホームなど）の整備により、既存の福祉サービスにつなげ、既存サービスで対応が困難なニーズに対して新しいサービスの創出等に寄与する必要があることを確認しました。

* 検討部会開催回数：6回



【家族構成】(ジェノグラム)



※ なお、平成30年度の「支援検討部会」は、形を変え「業務改善活動」の一環として、施設ごとに取組むこととしました。定期的に進捗状況の確認と意見交換をしながら、その検討状況を発表会でみなさんにお届けすべく、進めているところです。